

令和5年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
49	川崎市立下小田中小学校	八幡 博子

学校教育目標	今年度の重点目標
共に学び、明日が楽しみになる学校 根・智・和 ・命を大切にしながら進んで取り組む子 ・主体的・対話的に学ぶ子 ・互いを認め合い思いやる子	○自己を見つめ、自己と他者の命と存在を大切にして、工夫して力を合わせる態度、心身の成長に進んで取り組む態度の育成を図る ○資質・能力の育成を目指し、主体的・対話的な学びの実現に向けた授業改善を図る。 ○互いを認め合いながら、共に生きる協働する態度の育成、思いやりの心の育成を図る ○地域や家庭と連携し、開かれた安全で信頼される学校づくりを推進する

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
1 根をはる 自主・自立	①自己肯定感を高める学校・学級づくりの推進 ②主体性を育む特別活動の推進 ③目標を持ちあきらめずに挑戦する態度の育成 ④健康と体力の向上 ⑤防災・防犯教育の推進	・行事や委員会活動などで、子どもの考えを生かし、計画することで自分たちの思いを実現できることを体験させていった。 ・子どもの声を生かした学年実行委員や高学年の委員会活動等、様々な活動の機会を作り、成果を上げたことで自己肯定感が高まってきている。 ・プロセスを大切にしたり行事の工夫と実施を通し、あきらめずに挑戦することのよさや達成感を子どもたちが感じることができた。 ・感染症・熱中症対策の徹底を図り、継続した教育活動の展開を目指した。 ・子どもの安全を最優先にした様々なケースによる防災訓練を計画し実行した。再生整備工事期間中であり避難経路や引き取り経路の見直しを図り、大規模校における短時間での避難の検証を進めた。 ・防災部の校務分掌の位置づけの変更を図ったことにより、機動力ある部会になってきている。 ・子どもたちも参加する不審者対応訓練を中原警察署の協力を得て実施し、警察と連携しながら検証を行った。	・自分のよさを生かし、なりたい自分をイメージすることに、全校で取り組む。教科と特別活動を横断した学校単元をさらに推進する。 ・今年度の成果を教職員が共有し、プロセスを大切に、児童が目標達成のために粘り強く主体的に取り組める機会を作る。 ・ルールを守るだけでなく、子ども達が理由を考え、よりよくするための方法を考えて提案できるような活動を目指す。 ・コロナ禍において以前より弱くなっているコミュニケーション能力の向上を目指す。ソーシャルスキルトレーニングなどを取り入れる。共生共育の充実。SOS研修の充実も図る。 ・訓練以外にも防災教育は多岐に渡る。能登大地震の情報も多くの子供達が知っている。自分ならどう行動するかを考える防災教育の充実を行っていく。 ・学校防災マニュアルに基づき、防災教育を計画的に行い、地域とも共有する。
2 学んで伸びる 質の高い学び	①資質・能力の育成に向けたカリキュラムの編成 ②主体的・対話的で深い学びの実践 ③かわさきGIGAスクール構想の推進 ④指導力・授業力の向上 ⑤読書活動の充実	・年間カリキュラムの編成を資質・能力の視点で見直すこと、地域性を活かした学習の展開(パンジー栽培活動等)を作ることに取り組んだ。 ・国語の校内研究を通し、育成する資質能力を明確にしていった。見直しをもって学び、振り返る自己調整力を高めることに取り組み、成果を上げた。 ・主体的・対話的な授業改善について、教職員の意識と理解はかなり進んできている。 ・学年会での教材研究や各研修の積極的な参加などにより、授業づくりに取り組んだ。 ・児童会の代表委員会などでもギガ端末を子どもたちが活用できるようにしていった。授業や特別活動でも、自分たちの考えをパワーポイントなどにまとめて発表し、お互いの考えの共有ができてきている。	・修正した年間カリキュラムを生かし、実践し、練り上げていくことに取り組む。 ・校内研究を充実させ、育成する資質・能力の実現のための授業の在り方を研鑽し、授業改善を推進する。 ・学年会での教材研究がさらに充実するように時間の確保に努める業務改善を図る。 ・川崎市制100周年事業と連動し、作成したカリキュラムをいかしながら、子どもたちの心に残る周年活動の工夫を図る。 ・読書活動の充実については、まだまだ改善の余地がある。川崎市在住の作家横田明子氏の本など拡充を図る。子ども達一人一人にとって、いつも読みたい本がそばにあるという状況を作っていく。

3	調和する 共生・協働	<p>①互いのよさや違いを認め合い、思いやる子の育成 ②支援教育体制の確立と推進 ③児童指導体制の確立と推進 ④基本的な生活習慣と規範意識の育成</p>	<p>・子どもの考えを生かした活動を、話し合い、実行することで互いの良さや違いに目をむけ、主体的に工夫して取り組むようになった。 ・児童支援に関して、COを中心にした組織的対応ができた。教育相談を充実させ、保護者との連携を図った。 ・入り込み・取り出し支援を行い成果を上げた。不登校児童の対応を丁寧に行い、子どもの状況に応じて、ギガ端末の利用や教室以外の場所の活用など、多様な選択肢があることを伝えていった。 ・教職員いじめ防止研修は継続して実施し、意識の向上につながった。児童指導の迅速な対応についてチームで対応することを徹底し、早期解決を目指し実行した。 ・生活目標を全校で共有し、集中して取り組み、成果を上げた。時間を意識して生活する姿が見られた。</p>	<p>・行事や特別活動のプロセスを大切にし、子どもたちの主体性・協働性を育成する。それぞれの良さや違いを認めることによって生まれる活動を具体的に価値つけていく。自己選択できる活動など。 ・異学年交流を短時間で効率よく、かつ、質を上げて行うにはどのようにするか、子どもたちの自己肯定感と自信につながる活動を進めていく。 ・多様化する児童支援に対するニーズに対応するために、ケースごとの情報共有を進める。不登校に関わる課題に対しての各機関と連携した取り組みなど一層進めていく。 ・いじめ対応研修を継続し、教職員の意識を向上させる。 ・効果測定を学級づくり、児童指導と心の育成に生かす。継続した評価を行う。 ・チームでの迅速な対応例を紹介していくことで、学年内・校内での報・連・相の徹底を図る。</p>
4	支える 地域教育力活用・幼小中連携・学校評価	<p>①保護者や地域の教育力の活用 ②連携教育の推進 ③SDGsの取り組み促進 ④PDCAサイクルの確立 安全・連携・学校評価</p>	<p>・昨年以上の近隣保育園児を招き、1年生が小学校生活を紹介した。幼保との連携事業を推進できた。 ・小1プロブレムの軽減化を目指し、スタートカリキュラムを作成した。また、中一ギャップの軽減化を目指し、中学校体験と丁寧な引継ぎを継続している。 ・地域学習材を活用した学校教育活動を進めた。 ・児童会活動や委員会活動など、特別活動においてSDGsの趣旨を子どもたちが理解し、自分ごととして取り組む姿勢が見えるようになってきている。 ・学校教育目標と重点目標を学校アンケート・学校内評価に結び付け、成果と課題がわかりやすくなった。</p>	<p>・幼保中の連携を無理のない互恵的な形を模索しながら継続・充実させていく。中学校の先生方とのお互いの授業参観を行えるよう中学校に働きかけていきたい。 ・保護者や地域協力者の理解を得て、家庭科の実習や栽培活動などでの協力をお願いし、地域の方々の力を活かした学習の展開を図る。また、地域人材活用リストを整え、だれでもわかる情報集づくりを進めていく。 ・SDGsの一層の理解と行動を進める。 ・かわさき100周年に関する諸行事と地域の連動を図る。地域の花パンジー栽培に関する地域調べや栽培活動など行っているが、地域人材に協力を依頼し地域とともに祝えるよう子ども達の気持ちを高めていく。</p>

5	<p>持続する業務改善</p>	<p>①能動的に機能する運営組織の確立 ②働き方改革を意識した業務改善への取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・総括教務部会を活性化し、教育目標に沿ってチームが計画したことをスピード感をもって実行するよう、また、各自の資質・能力が反映するよう組織力アップを図ってきた。機能し始めていると感じている。教職員が運営組織の在り方を理解し、能動的に企画・実行がなされてきている。 ・勤務時間の適正化を図り、健康管理を意識した働き方を推進するために、休憩時間の確保・会議の精選と短時間化・そのための事前準備の在り方・C4thの活用など、具体的に取り組んだ。週1回のノー会議デー実施に取り組んだ。 ・実際にどの業務に時間がかかっているか、聞き取り研修を行った。 ・クロムブックやC4thの活用を進め、会議の効率化と資料精選を図って業務改善とペーパーレスにおいて効果を上げている。 ・ほとんどの学年で教科担当制を取り入れていった。効果を検証し、一層進めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営組織の在り方を粘り強く伝え、チーム学校を実現していく。 ・資料等のペーパーレス化を一層進める。 ・教科担当制の拡充を図り、学習効果を上げつつ、業務改善にもなるようにしていく。 ・カリキュラムマネジメントと働き方改革が、業務改善において重要であり、両者のバランスを保ち適正な改善をしていくには、教職員一人一人の意識の向上が重要であることを共有する。 ・教育目標実現のために必要なもの、見直すものを見極め、評価と指導の一体化を意識し、カリキュラムマネジメントを進める。
---	-----------------	---	--	---

学校関係者の評価	学校運営のまとめ
<p>○児童会の計画委員会児童の発表の感想 目標を立て、具体的な行動が伴っていることが素晴らしい。代表委員会で少人数でどの子どもも意見が言えるよう工夫している点も将来に役立つ考え方なので是非継続してほしい。心ぼかぼかチャンネルの取り組みなど、保護者にも発信をお願いしたい。継続していくことが大切。応援していきたい。</p> <p>○教育活動全般を通して</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校評価をみると保護者は子どもに厳しいと感じる。子どもが頑張っていることをしっかり大人が認め伝えることが大切。保護者に子どもの様子を伝える工夫も必要。 ・「やや思う」と回答した中に「やや思わない」部分もあるということを確認し、「思う」の数値をあげていきたい。 ・アンケート結果の数値がもつ意味を吟味すること。数値が現状を反映しているのか、回収率、比較対象等もセットで考えていくこと。 ・学校がPDCAサイクルで運営されていることを改めて感じた。学校運営協議会は学校・地域・家庭における教育の在り方を議論できる場である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・数年にわたったコロナの影響が子どもたちの心に少なからず影響を与えていると感じている。温かな学校の風土で、子どもたちが多様な感じ方や考え方を認め合い、安心して学校に通えるよう、様々な工夫を行う。 ・資質能力を育成するため主体的に対話的な授業づくりを加速させ、授業力の向上、授業改善に向けて、校内研究を充実させ研修を進める。 ・不登校対策等の児童支援・いじめ予防と対策に関する児童指導・社会性を育てる児童指導に力を入れていく。 ・安全教育、防災教育の充実を図る。 ・読書活動の充実。 ・授業及び授業以外での効果的なギガ端末活用を行い、子どもの情報機器活用のスキルアップとモラル向上を目指す。 ・働き方改革としてもギガ端末活用と校務PCの活用を一層進め、一層のペーパーレス化を図る。行事の見直しや教科担当制を含め、様々な取り組みを加速させる。 ・川崎市制100周年事業と連動し、地域の学校としてのカリキュラムの充実を目指す。